

江古田小校長室便り 「温故創新」

H29（2017）・0814 NO20

校長 伊波喜一

エ面して もったいないと 思うもの 作り手のこと 忘れてならん
オーストラリアのシドニーに「すべて無料」のスーパーが出来ました（朝日新聞7・9付）。このスーパー「オズハーベストマーケット」には値札もレジもなく、客は買い物かご一つまでなら品物を手にすることが出来ます。今までなら賞味期限前に処分されていた食品（食品ロス）を、必要としている人達に提供する試みです。日本でも食品ロスは大きな問題です。このような試みが市民レベルで行われていくことに、光明が差す思いがします。 人間社会と自然との共存を訴えたケニアのワンガリ・マータイ博士は、日本の誇るべき文化に「もったいない」を上げています。地球という限られた資源と人口を考えると、リサイクルやリユース、物をその寿命まで使っていくことは、大事なことです。 筆者の子ども時分に、自転車で荷台を引いた腐屋さんが、ラッパを鳴らしながら売りに来ました。今のようなパック売りではなく、買い手は鍋を用意し、その中に豆腐を一丁・二丁と入れてもらいました。手間も暇もかかりましたが、あの時の体験を忘れてはいけなないと、改めて思っています。